

第 3 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.01
	飛鳥			

[問題 1]

次の文の①～④に適語を入れよ。

6 世紀になると、地方で豪族が反乱を起こし、中央でも(①)氏や物部氏が権力争いを繰り広げていた。この争いを和らげるため、女性の(②)天皇が即位し、そのおいの聖徳太子が(③)になった。このころ中国では(④)が強大な帝国をつくりあげたが、聖徳太子は(①)馬子と協力して、(④)のような進んだ国を作るために政治制度を整えようとした。

[解答欄]

①蘇我	②推古	③摂政	④隋
-----	-----	-----	----

[解説]

〔聖徳太子〕

593年 推古天皇 の摂政になる
蘇我馬子と協力して政権をにぎる



6 世紀になると、地方で豪族が反乱を起こし、中央でも蘇我氏や物部氏が権力争いを繰り広げていた。蘇我氏は、外国の宗教である仏教を取り入れようとして、これに反対する物部氏と争って滅ぼし、政府内で大きな力をふるった。一方、中国では 589 年に隋が中国を統一して強大な帝国をつくりあげ、国際的緊張が高まった。

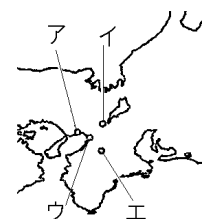
こうした内外の情勢の中、593 年に女性の推古天皇が即位し、そのおいの聖徳太子が摂政になった(五組(593)いっしょに裁く聖徳太子)。

摂政とは、天皇が女性であったり幼少であったりするときに置かれることがあり、天皇の代理として政治を行う役職である。聖徳太子は蘇我馬子と協力して政治制度を整えようとした。当時の政治の中心は飛鳥地方であった。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 日本に仏教が伝わった後、仏教を取り入れようとして物部氏と争って勝利し、大きな力をもったのは何氏か。
- (2) 589 年に中国を統一した国の名を書け。
- (3) 聖徳太子は(①)天皇を助けるために(②)という位について政治を行った。
①、②に適語を入れよ。
- (4) (3)のころ、政治の中心であった場所を、右の地図中のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。



[解答欄]

(1) 蘇我氏	(2) 隋	(3)①推古	②摂政	(4) エ
---------	-------	--------	-----	-------

[問題 3]

聖徳太子は推古天皇の摂政となったが、摂政という役職の内容を、「天皇」という言葉を使って説明せよ。

[解答欄]

摂政とは、天皇が女性であったり幼少であったりするときに置かれることがあり、天皇の代理として政治を行う役職である。

[問題 4]

国の支配者である「大王」ということばは、7 世紀ごろに別の呼び方になっている。何という呼び方になったか。

[解答欄]

天皇

[解説]

大王はのちに「天皇」と呼ばれるようになったが、その時期については、遣隋使を派遣した推古天皇のころという説と、大王(天皇)の地位がおおはばに高まった天武天皇、持統天皇のころ(7 世紀後半)という説とに分かれている。

[問題 5]

家柄にとらわれず、才能や功績のある個人を役人に取り立てるために、聖徳太子が定めた制度は何か。

[解答欄]

冠位十二階

[解説]

[冠位十二階]

家柄に関係なく、才能のある人物を役人に登用する制度

聖徳太子は、国家の仕組みを整えるため、603 年に冠位十二階を、604 年に十七条の憲法を定めた。

冠位十二階は、役人の位を冠の色(紫色が最高位)で区別する制度で、家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に取り立てようとするものであった。

[問題 6]

次の資料を見て、後の各問いに答えよ。

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ。

二に曰く、あつく a 三宝 を敬え。...

三に曰く、b 詔 をうけたまわりては必ずつつしめ。

(1) 資料は何というか。

(2) 資料中の下線部 a で、「三宝」にあてはまらないものを次の[]から 1 つ選べ。

[仏 徳 僧 法]

(3) (1)を出した人物とともに、仏教を広めようとしたのは何氏か。

(4) 資料中の下線部 b は国家の中心となる地位にある人からの命令のことである。

この地位にある人を何というか。

(5) 資料は誰のための心構えであるか。次の[]から 1 つ選べ。

[役人 農民 奴隷]

[解答欄]

(1) 十七条の憲法	(2) 徳	(3) 蘇我氏	(4) 天皇(大王)	(5) 役人
------------	-------	---------	------------	--------

[解説]

[十七条の憲法] 役人の心構えを示した。

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ（争いをやめよ）

二に曰く、あつく三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり（仏教を重んじよ）

三に曰く、詔をうけたまわりては必ずつつしめ（天皇の命令に従え）

聖徳太子は、604 年に十七条の憲法を定め、仏教を重んじるべきことや天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示した。

「一に曰く、和をもって貴しとなし、さからう(争う)ことなきを宗とせよ」とは「和を尊び、争いをやめよ」という意味である。この記述からも、当時、豪族間の対立が激しかったことがわかる。

「二に曰く、あつく三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり」とは「仏教を重んじよ」という意味である。仏教をさかんにすることで豪族間の対立をやわらげ、仏教を共通の信仰として国家の統一をはかろうとした。

「三に曰く、詔をうけたまわりては必ずつつしめ」とは「天皇の命令を受けたときは、必ずこれに従え」という意味である。この当時、天皇(大王)の命令(詔)が必ずしも遵守されていなかったことがうかがえる。このころの大和政権は、豪族の連合政権であり、天皇(大王)の権力は絶対的なものではなかった。

[問題 7]

次の各問いに答えよ。

- (1) 右の図 1 の寺を何というか。
- (2) (1)の寺が世界遺産に登録された理由を簡潔に書け。
- (3) (1)の寺ができた時代の文化を何というか。
- (4) 図 2 は(1)の寺にある仏像である。何というか。
- (5) 飛鳥文化の特徴を簡潔に説明せよ。

図1

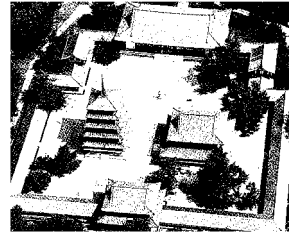


図2



[解答欄]

(1) 法隆寺	(2) 世界最古の木造建築だから。	(3) 飛鳥文化
(4) 釈迦三尊像	(5) 日本で最初の仏教文化である。	

[解説]

[飛鳥文化]

法隆寺, 釈迦三尊像

日本で最初の仏教文化

聖徳太子は、仏教をさかんにすることで豪族間の対立をやわらげ、仏教を共通の信仰として国家の統一をはかろうとした。聖徳太子が建てた**法隆寺**は、一度焼失したが、その後、再建され、現存する世界最古の木造建として世界遺産にも登録されている。飛鳥地方を中心に**日本で最初の仏教文化**が栄えたが、これを**飛鳥文化**といい、法隆寺の**釈迦三尊像**や**法隆寺金堂の壁画**がその代表とされている。



聖徳太子
の肖像画



法隆寺



法隆寺の
釈迦三尊像



法隆寺の
弥勒菩薩像



法隆寺
金堂の壁画

[問題 8]

右の年表を見て、あとの各問いに答えよ。

- (1) 年表中の A、C にあてはまる中国の王朝名をそれぞれ書け。
- (2) 年表中の B は、「一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ。…」ではじまるもので、役人の守るべき心構えを示したものである。B にあてはまる語句を書け。
- (3) 年表中の B を定めた人物の名前を書け。
- (4) (3)の人物は、家柄にとらわれず、才能や功績のある個人を役人にとりたてようとしたが、この制度を何というか。

年代	おもなできごと
538 年	百済から仏教が伝わる。
589 年	(A)が中国を統一する。
604 年	(B)が制定される。
618 年	(C)が中国を統一する。

[解答欄]

(1)A 隋	C 唐	(2) 十七条の憲法	(3) 聖徳太子	(4) 冠位十二階
--------	-----	------------	----------	-----------

[解説]

[聖徳太子]
 十七条の憲法, 冠位十二階
 遣隋使, 飛鳥文化

聖徳太子に関してよく出題されるのは、**十七条憲法**、**冠位十二階**、**遣隋使**、**飛鳥文化・法隆寺**である。

「一に曰く、和をもって貴しとなし…」で始まる十七条の憲法は役人の守るべき心構えを示したものである。

冠位十二階は、家柄にとらわれず、才能や功績のある個人を役人にとりたてようとする制度である。

遣隋使は小野妹子を隋へ使節として送ったものである。

飛鳥文化は法隆寺を中心とする日本で最初の仏教文化である。